

ドローンでたん水直播

三重・伊勢・JA伊勢 規模拡大、省力化に期待

【三重・伊勢】JA伊勢は4月中旬、玉城町の水田で、ドローンを活用した水稲のたん水直播（ちよくは）の試験をした。たん水直播栽培は、育苗や移植作業にかかるコストや手間が省けるため、規模拡大や人手不足の解消が期待できる。

担当者は「直播などの多様な水稲栽培を提案・普及することで、担

い手生産者の経営改善に寄与したい」と話す。JAは今後、生育や病害虫の発生状況などを観察しながら、適正な栽培管理に努める。生育が順調に進み、収量が確保できれば、ドローンによるたん水直播の普及に取り組んでいく。

試験は、あらかじめ水を張っておいた水田にコーティング剤のリゾケアを塗布した種もみをまくもの。種もみが適度な重さになることで、土中にしっかりと入り込み、浮き上がる心配がない。コーティング剤には、酸素供給剤と殺虫剤、殺菌剤を組み合わせているため、発芽不良や病害虫の発生も予防できる。

この日は、JAの職員がドローンを操作して水田約30㍏に種もみ約10㍏をまいた。JA

ドローンを使ったたん水直播の試験をするJA職員

